

厚生労働科学研究費補助金（認知症政策研究事業）
分担研究報告書

要介護高齢者の要介護度の変化と認知症の有無及び独居／非独居の関係
—独居認知症群／非独居認知症群／非認知症群の3群間比較より—

研究分担者 川越雅弘 埼玉県立大学大学院・教授
研究協力者 南 拓磨 埼玉県立大学・特任助教

研究要旨

【目的】認知症の有無及び世帯状況（独居／非独居）と、認定有効期間2年の要介護高齢者の2年後の要介護度の変化の関係性を明らかにする。

【方法】2017年9月末時点のA市の要支援・要介護認知症高齢者で、認知症高齢者の日常生活自立度（以下、認知症自立度）データがあった29,502人のうち、2019年9月末時点の認定データを保有し、かつ、認定有効期間が2年であった15,502人を、認知症自立度及び住民基本台帳の世帯情報をもとに「独居認知症群（n=4,772）」「非独居認知症群（n=4,185）」「非認知症群（n=6,063）」の3群に分類した上で、2年後の要介護度の変化を比較した。

【結果】データを分析した結果、以下のことがわかった。

- ① 全ての要介護度において、要介護度の軽度化率は「非認知症群」が最も高く、逆に、重度化率は最も低かった
- ② 認知症の2群間で要介護度別重度化率を比較すると、独居群の方が、「要支援1」で9.1ポイント、「要介護4」で6.8ポイント、「要介護1」で4.2ポイント高い一方で、それ以外の要介護度では、非独居群の方が重度化率は高かった
- ③ 要介護度と軽度化率の関係をみると、3群とも軽度者で改善率が低い傾向が、他方、重度化率は、3群とも軽度者で高い傾向がみられた（軽度者ほど改善しにくく、かつ重度化しやすい）

【考察】

本研究から、認知症群は、非認知症群に比べ、全要介護度で重度化率が高いことが、また、3群とも軽度要介護者で重度化率が高いことも確認できた。

要支援・要介護1の在宅高齢者を対象とした先行研究によると、非認知症群に比べ、認知症群で移動動作能力の低下がADL低下に大きく影響していることを明らかにしている。また、こうした移動動作の障害の進行がセルフケアの崩壊に直結しているのではないかと推察している。

軽度要介護の認知症高齢者の機能低下（特に、移動・歩行能力の低下）を防ぐことが、要介護度の重度化防止、さらには在宅生活の継続性確保につながる重要課題であると考えた。

A. 研究目的

2040 年にかけて 85 歳以上高齢者が急増する一方で、医療・介護従事者の年齢層に当たる 15～64 歳人口（生産年齢人口）の減少幅は拡大していく。支える側と支えられる側の人口バランスが崩れることから、それを是正するための様々な施策が現在検討されている。その中の重要施策の一つが、要支援・要介護高齢者を増やさない、あるいはできるだけ重度化させないといった意味の「介護予防」である。

要介護度の重度化に関する先行研究では、①病気の再発や重症化、②ADL・IADL 等の自立度低下、③歩行・移動能力の低下などとともに、認知症であることを要因の一つに挙げている論文はあるものの、報告数は少ない。また、今後増加する認知症の独居高齢者に焦点を当てた研究はほとんどない。

そこで、本研究では、A 市の要支援・要介護高齢者を対象に、2 年後の要介護度の変化の差異を、独居認知症群／非独居認知症群／非認知症群の 3 群間で比較しながら、その実態を明らかにすることを目的とした。

B. 研究方法

2017 年 9 月末時点の A 市の要支援・要介護認知症高齢者で、認知症高齢者の日常生活自立度（以下、認知症自立度）データがあった 29,502 人のうち、2019 年 9 月末時点の認定データを保有し、かつ、認定有効期間が 2 年であった 15,502 人を、認知症自立度及び住民基本台帳の世帯情報をもとに「独居認知症群（n=4,772）」「非独居認知症群（n=4,185）」「非認知症群（n=6,063）」の 3 群に分類した上で、2 年後の要介護度の変化を比較した。

（倫理面への配慮）

本研究は、埼玉県立大学埼玉県立大学倫理審査委員会の許可を得て実施している（通知番号：19007）。

C. 研究結果

1) 基本特性

男性比をみると、「独居認知症群」16.7%、「非独居認知症群」38.4%、「非認知症群」26.7%、平均年齢をみると、「独居認知症群」85.1±7.3 歳、「非独居認知症群」83.2±7.1 歳、「非認知症群」81.7±6.9 歳と、独居認知症群は、他の 2 群に比べ、男性の割合が低く、平均年齢は高かった。また、要介護度は、独居認知症群の方が重度に分布していた（表 1）。

表 1. 基本特性

	独居 認知症群	非独居 認知症群	非認知症 群
n(人)	4,772	4,185	6,063
男性(人)	795	1,605	1,619
男性比(%)	16.7	38.4	26.7
年齢(歳)	85.1±7.3	83.2±7.1	81.7±6.9
介護度(%)			
-支援 1	1.4	2.0	31.1
-支援 2	3.9	4.3	44.9
-介護 1	27.1	31.3	7.0
-介護 2	25.1	25.6	10.1
-介護 3	19.6	16.4	3.7
-介護 4	13.2	11.4	2.1
-介護 5	9.6	8.9	0.9

2) 要介護度の変化

表 2 に、2017 年 9 月末時点と 2019 年 9 月末時点の要介護度のクロス集計を、表 3 に、各群の開始時点（2017 年 9 月末時点）の要介護度別にみた 2 年間の要介護度の軽度化率／維持率／重度化率を、図 1 に、開始時点の要介護度別にみた軽度化率／重度化率の 3 群間の比較を示す。その結果、

- ① 全ての要介護度において、要介護度の軽度化率は「非認知症群」が最も高く、逆に、重度化率は最も低かった
- ② 認知症の2群間で要介護度別重度化率を比較すると、独居群の方が、「要支援1」で9.1ポイント、「要介護4」で6.8ポイント、「要介護1」で4.2ポイント高い一方で、それ以外の要介護度では、非独居群の方が重度化率は高かった
- ③ 要介護度と軽度化率の関係をみると、3群とも軽度者で改善率が低い傾向が、他方、重度化率は、3群とも軽度者で高い傾向がみられた（軽度者ほど改善しにくく、かつ重度化しやすい）
などがわかった（図1）。

D. 考察

本研究から、認知症群は、非認知症群に比べ、全要介護度で重度化率が高いことが確認できた。この結果は、通所リハの継続利用者の重度化に認知症が影響しているとした唐澤らの研究結果と一致するものであった。また、3群とも軽度要介護者で重度化率が高いことも確認できたが、この結果も先行研究とほぼ同じ結果であった。これら結果から、認知症の軽度要介護高齢者の重度化防止が重要課題であることは確認できたものの、認知症群の中の独居群と非独居群間の重度化の差異に関しては明らかにはならなかった。独居か否かといった要因よりも、認知症の有無が要介護度の重度化により大きく影響している可能性が示唆された。

さて、要支援・要介護1の在宅高齢者を対象とした佐藤らの研究によると、非認知症群に比べ、認知症群で移動動作能力の低下がADL低下に大きく影響していることが示されている。また、こうした移動動作の障害の進行がセルフケアの崩壊に直結しているのではないかと佐藤らは推察している。

軽度要介護の認知症高齢者の機能低下

（特に、移動・歩行能力の低下）を防ぐことが、要介護度の重度化防止、さらには在宅生活の継続性確保につながる重要課題であると考えた。

E. 結論

認知症の軽度要介護高齢者の重度化を防ぐための対策強化が重要であることが明らかとなった。

（参考文献）

- 1) 佐藤ゆかりほか：認知症の有無別にみた要支援・要介護1の在宅高齢者におけるADLと移動動作との縦断的な関係。老年社会科学, 28(3)：321-333 (2006) .
- 2) 唐澤裕子ら：通所リハビリテーション継続利用者における18ヶ月間の要介護度変化について。理学療法群馬, 21：20-27 (2010) .

F. 研究発表

1. 論文発表：なし
2. 学会発表：なし

G. 知的財産権の出願・登録状況(予定含む)

1. 特許取得：なし
2. 実用新案登録：なし
3. その他

表 2. 認定有効期間 2 年の継続認定高齢者の要介護度の 2 年後の変化

a) 独居認知症群

2017.9 時点の 要介護度	2019.9 時点の要介護度							合計
	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	
人数 (人)								
要支援 1	20	14	23	5	3	2	1	68
要支援 2	19	67	53	31	10	6	2	188
要介護 1	14	19	618	339	167	92	42	1,291
要介護 2	2	11	137	532	334	120	64	1,200
要介護 3	1	0	12	70	454	260	139	936
要介護 4	0	0	2	8	51	351	220	632
要介護 5	0	0	0	0	11	100	346	457
合計	56	111	845	985	1,030	931	814	4,772
割合 (%)								
要支援 1	29.4	20.6	33.8	7.4	4.4	2.9	1.5	100.0
要支援 2	10.1	35.6	28.2	16.5	5.3	3.2	1.1	100.0
要介護 1	1.1	1.5	47.9	26.3	12.9	7.1	3.3	100.0
要介護 2	0.2	0.9	11.4	44.3	27.8	10.0	5.3	100.0
要介護 3	0.1	0.0	1.3	7.5	48.5	27.8	14.9	100.0
要介護 4	0.0	0.0	0.3	1.3	8.1	55.5	34.8	100.0
要介護 5	0.0	0.0	0.0	0.0	2.4	21.9	75.7	100.0
合計	1.2	2.3	17.7	20.6	21.6	19.5	17.1	100.0

b) 非独居認知症群

2017.9 時点の 要介護度	2019.9 時点の要介護度							合計
	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	
人数 (人)								
要支援 1	32	4	30	11	1	2	3	83
要支援 2	14	65	44	32	11	11	3	180
要介護 1	18	24	674	315	182	63	35	1,311
要介護 2	2	3	116	484	296	126	45	1,072
要介護 3	0	0	15	84	320	182	86	687
要介護 4	0	0	3	6	59	276	134	478
要介護 5	0	0	1	0	3	81	289	374
合計	66	96	883	932	872	741	595	4,185
割合 (%)								
要支援 1	38.6	4.8	36.1	13.3	1.2	2.4	3.6	100.0
要支援 2	7.8	36.1	24.4	17.8	6.1	6.1	1.7	100.0
要介護 1	1.4	1.8	51.4	24.0	13.9	4.8	2.7	100.0
要介護 2	0.2	0.3	10.8	45.1	27.6	11.8	4.2	100.0
要介護 3	0.0	0.0	2.2	12.2	46.6	26.5	12.5	100.0
要介護 4	0.0	0.0	0.6	1.3	12.3	57.7	28.0	100.0
要介護 5	0.0	0.0	0.3	0.0	0.8	21.7	77.3	100.0
合計	1.6	2.3	21.1	22.3	20.8	17.7	14.2	100.0

c) 非認知症群

2017.9 時点の 要介護度	2019.9 時点の要介護度							
	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
人数 (人)								
要支援 1	974	563	179	87	42	28	15	1,888
要支援 2	284	1,597	315	298	117	88	26	2,725
要介護 1	13	38	220	79	42	18	16	426
要介護 2	3	44	56	339	108	47	18	615
要介護 3	1	3	3	40	104	50	24	225
要介護 4	0	0	2	8	23	72	22	127
要介護 5	0	1	0	1	3	9	43	57
合計	1,275	2,246	775	852	439	312	164	6,063
割合 (%)								
要支援 1	51.6	29.8	9.5	4.6	2.2	1.5	0.8	100.0
要支援 2	10.4	58.6	11.6	10.9	4.3	3.2	1.0	100.0
要介護 1	3.1	8.9	51.6	18.5	9.9	4.2	3.8	100.0
要介護 2	0.5	7.2	9.1	55.1	17.6	7.6	2.9	100.0
要介護 3	0.4	1.3	1.3	17.8	46.2	22.2	10.7	100.0
要介護 4	0.0	0.0	1.6	6.3	18.1	56.7	17.3	100.0
要介護 5	0.0	1.8	0.0	1.8	5.3	15.8	75.4	100.0
合計	21.0	37.0	12.8	14.1	7.2	5.1	2.7	100.0

表 3. 要介護度別にみた二年後の要介護度の軽度化／維持／重度化率

a) 独居認知症群

2017.9 時点の 要介護度	2年間の要介護度の変化							
	軽度化	維持	重度化	合計	軽度化	維持	重度化	合計
	人数（人）				割合（％）			
要支援 1	-	20	48	68	-	29.4	70.6	100.0
要支援 2	19	67	102	188	10.1	35.6	54.3	100.0
要介護 1	33	618	640	1,291	2.6	47.9	49.6	100.0
要介護 2	150	532	518	1,200	12.5	44.3	43.2	100.0
要介護 3	83	454	399	936	8.9	48.5	42.6	100.0
要介護 4	61	351	220	632	9.7	55.5	34.8	100.0
要介護 5	111	346	-	457	24.3	75.7	-	100.0
合計	457	2,388	1,927	4,772	9.6	50.0	40.4	100.0

b) 非独居認知症群

2017.9 時点の 要介護度	2年間の要介護度の変化							
	軽度化	維持	重度化	合計	軽度化	維持	重度化	合計
	人数（人）				割合（％）			
要支援 1	-	32	51	68	-	38.6	61.4	100.0
要支援 2	14	65	101	188	7.8	36.1	56.1	100.0
要介護 1	42	674	595	1,291	3.2	51.4	45.4	100.0
要介護 2	121	484	467	1,200	11.3	45.1	43.6	100.0
要介護 3	99	320	268	936	14.4	46.6	39.0	100.0
要介護 4	68	276	134	632	14.2	57.7	28.0	100.0
要介護 5	85	289	-	457	22.7	77.3	-	100.0
合計	429	2,140	1,616	4,772	10.3	51.1	38.6	100.0

c) 非認知症群

2017.9 時点の 要介護度	2年間の要介護度の変化							
	軽度化	維持	重度化	合計	軽度化	維持	重度化	合計
	人数（人）				割合（％）			
要支援 1	-	974	914	1,888	-	51.6	48.4	100.0
要支援 2	284	1,597	844	2,725	10.4	58.6	31.0	100.0
要介護 1	51	220	155	426	12.0	51.6	36.4	100.0
要介護 2	103	339	173	615	16.7	55.1	28.1	100.0
要介護 3	47	104	74	225	20.9	46.2	32.9	100.0
要介護 4	33	72	22	127	26.0	56.7	17.3	100.0
要介護 5	14	43	-	57	24.6	75.4	-	100.0
合計	532	3,349	2,182	6,063	8.8	55.2	36.0	100.0

図1. 要介護度の二年後の軽度化率／重度化率の3群間比較

a) 軽度化率



b) 重度化率

